

昭和五十五年国文学会活動状況

〈教育問題懇談会〉（八月一日・京都私学会館）

「今昔物語」教材をめぐる

河合 功（大阪市立東高校）

野坂昭如「凧になったお母さん」

―戦争教材をどう扱うか―

加藤 昌孝（同志社香里高校）

〈総会・研究報告会〉（十一月二十三日・京都教育文化センター）

・研究発表

中野重治の転向

岸 健治（平安女学院）

尊敬の接頭辞「み」の成立

―漢語熟語とのかかわり―

吉野 政治（京都府立東稜高校）

昭和五十四年度卒業生卒業論文題目

〈日本文学古代前期〉

皇祖神話としての天孫降臨神話

石田 由紀子

人身御供譚の形成

―口承文芸の異層を明らかにする立場から―

古代歌謡における枕詞

万葉集序歌における抒情詩の成立

万葉集と伝承の女

挽歌の伝統と創造

―泣血哀慟歌を中心として―

虫麻呂伝説歌の成立

ますらをの心

―天平勝宝七歳の家持の長歌をめぐる―

〈日本文学古代後期〉

自然美観の展開

―王朝文学に一つの結実を見るまで―

「文学を残した女房たちの光と影」

「竹取物語」の本質

新井 正子  
久野 有子  
安達 和子

岩田 聖二  
松川 秀之  
伊藤 勇

山海 通子  
内藤 景治  
矢野 智子  
木村 美穂子

竹取物語の方法―月の禁忌―

「竹取物語論」

『竹取物語の研究』

『竹取物語』の理想と現実

―世の中に生きること―

伊勢物語における女性

―みやびを体現する女性たち―

伊勢物語を貫くもの 愛とみやび

『伊勢物語』の伝承的みやび

伊勢物語論―民謡的要素と業平的要素の接点―

『伊勢物語』の基調

―「昔男」の人間像を通して―

伊勢物語の方法―昔おとこの形象―

伊勢物語における昔男の姿について

―昔女の立場から見た考察―

在原業平私論

「伊勢物語」

―その描こうとしたものを求めて―

「伊勢物語」の女たち

伊勢物語における愛とみやびについて

牧野 広子

住友 真理

辻井 桃子

川部 清子

浅野 恵子

橋本 力津子

八田 美和子

平野 文子

広瀬 順子

藤村 悦郎

井戸 信恵

梶原 伸子

森田 薫子

中村 祐子

富岡 久恵

『伊勢物語』の方法―みやびということ―

小野小町論―「衣通姫の流れ」にそって―

『蜻蛉日記』における物語の意義

―静なる世界への軌跡―

枕草子における日記的章段の考察

―執筆時の清少納言の意図―

『枕草子の研究』―「をかし」を通して―

『枕草子』の執筆意識

家集からみた和泉式部論

和泉式部像―孤愁の佳人―

『和泉式部日記』の「愛」について

式部の宮仕え―「日記」を軸に―

紫式部の人間像

紫式部の人間像

―消息文における同性批判を中心に―

紫式部の人間観―「紫式部日記」より見た―

『紫式部日記』より見た式部像

―消息体部分の訴えているもの―

源氏物語の呪の構造

―伊勢・野宮の調査を中心に―

渡辺 万里子

栗田 博子

石川 美穂

中西 美知代

田実 雅子

百合山 千賀子

川崎 昌子

香西 千鶴

吉村 勝雅

石田 陽子

中塚 美智子

奥村 純代

椎葉 尚子

山森 弘美

鷲谷 藤子

源氏物語の色彩的表象

『源氏物語』―「霧りふたがる」考

末摘花物語に見る笑いについて

薫論―物語世界の△闇▽をめぐって

大君物語論

説話文学―その伝承性と様式性―

△日本文学中世▽

歎異抄

「とはすがたり」巻一における二条と彼女をめぐる男性

「徒然草」における兼好の人間観

『徒然草』版本の挿絵と研究

徒然草の研究―花園天皇との思想をめぐって―

四部合戦状本『平家物語』の考察

―清盛像造型の視点から―

平家物語の女性たち

平家物語における平知盛像と運命観

『平家物語』と説話

―維盛・六代説話をめぐって―

小林 貴子

小林 宴子

沢田 恵都子

俣野 玲子

阪本 久美子

井上 由美子

加茂 牧子

加茂 牧子

加茂 牧子

藤田 桂子

大西 ゆかり

大野 和子

福岡 正和

河村 範子

大藪 佐知子

山口 孝子

山口 孝子

覚一本『平家物語』の独自性をめぐって

―重衡譚を通して―

能における源氏物語の再生

世阿弥謡曲にあらわれる『桜花』について

『元雅論』

「狂言の山伏についての考察」

座頭狂言の考察

猿楽狂言の発生と歴史及びその考察

狂言の笑い

△日本文学近世▽

『好色五人女』

「日本永代蔵」私論

「世間胸算用」について

『世間胸算用』論

『野ざらし紀行』の作品意識

―文章表現を中心に―

曾我物語の近世化と近松

『世継曾我』の成立

近松の心中観―心中物をめぐって―

吉田 郁子

室 孝

野島 久美子

野村 貴子

江崎 恵一

稲田 秀雄

中西 典生

高司 智

高司 智

片葺 みゆき

清瀬 玲子

梅谷 淑子

富田 幸子

村田 香織

山崎 睦也

中野 勝

石田 祥子

近松作品における「義理」の解釈

—『曾根崎心中』と『心中天の網島』をめぐって—

土居 祐子

『彼岸過迄論』—存在の「場」を求めて—  
芥川文学についての一考察

—生硬な思想の表出を中心に—

小関 和博

『曾根崎心中』から『生玉心中』への悲劇性の推移

野村 美栄子

芥川龍之介の原風景—「大川の水」を中心に

芥川龍之介論

金 森 尚子

近松心中浄瑠璃におけるモチーフの一考察

—『曾根崎心中』を中心に—

大下 裕子

「芥川龍之介論—王朝物の世界」

広津和郎のリアリズムについて

山田 明代

『曾根崎心中』二つの道行

土屋 純子

宮沢賢治童話の特性

梶井基次郎について

草野 由美子

『大職冠』について

田中 馨

『蓼喰う虫』論

「鍵」の分析—その衝撃性をめぐって—

小野打 みどり

『女殺油地獄』小考—研究史より—

大谷 玲子

小林多喜二の現代的意義

—「党生活者」をめぐって—

菅原 信子

『東海道四谷怪談』の世界

石田 理枝

太宰治論—「かるみ」と中期について—

檀一雄 その幼年時代と初期作品

前川 まり子

一茶論

△日本文学近代・現代▽

泉鏡花における故郷の考察

与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」

藤村の「春」

夏原 由美子

酒井 裕美

三ヶ尻 史郎

立原道三—その模索期—

伊東静雄—その詩の出發をめぐって—

野間宏「青年の環」論—大道出泉の成熟—

三島由起夫における西欧志向

岡本 稚歩美

重松 英美

森岡 友宏

城生 清孝

『三島由起夫論』

安部公房論

山本周五郎論

初期大江健三郎の作品について

—戦後十年—監禁された青年—

井上光晴「地の群れ」論

古井由吉論

沢近 了

藤村 勉

梶浦 義人

昭和五十四年度修士論文題目

乞食者詠二首—その「笑い」の特質から—

「竹取物語」論

尾崎 千春  
沢田 治子

塩見 登喜子

奥村 光男

植嶋 一晃

△国語学▽

万葉集における格助詞「の」の表記

暦法・時法における和語と漢語の交替

漢語の敬語の変遷

女性の一人称における「意味」と「音」

助数詞の変遷

日本語に於ける移動を表わす動詞

—そのアスペクトを中心に—

岡本 明子

安井 昌美

大岡 哲生

田中 秀子

友井 久美子

吉田 尚

執筆者紹介

南波 浩 本学教授

田中 順二 同志社女子大学教授・本学講師歴任・奈良大学

教授・『帯木』主宰

里井 のぶ 故里井陸郎先生御夫人

山内 潤三 大谷女子大学教授・本学嘱託講師

広川 勝美 本学教授

生形 貴重 本学大学院昭和五十一年度修了生

同志社女子中高等学校教諭・本学講師

佐伯 真一 本学昭和五十一年度卒業生

東京大学大学院生

谷口 広之 本学大学院昭和五十三年度修了生

柳田 洋一郎 本学大学院昭和五十三年度修了生

大阪市立第二工芸高等学校教諭

生井 武世 本学大学院昭和四十七年度修了生

同志社香里中高等学校教諭・本学講師

小関 真理子 本学大学院昭和五十一年度修了生

山田 和人 本学大学院昭和五十三年度修了生

大阪府立千里高等学校講師

宮本 正章 本学大学院昭和四十三年度修了生

大阪府立箕面高等学校教諭